

日本痛風・尿酸核酸学会 評議員会 議事録

日 時 : 令和2年2月13日 7:45～8:45
会 場 : 北九州国際会議場

出席者 (敬称略)

(理事) 上田孝典、藤森 新、山中 寿、市田公美、内田俊也、
大野岩男、金子希代子、四ノ宮成祥、寺井千尋、久留一郎、
細山田真、益田郁子、森崎隆幸、森脇優司、山田裕一、
山内高弘

(20名中 出席16名 委任状2名 欠席2名)

(評議員) 飯笹泰藏、石坂信和、太田原顕、大坪俊夫、岡本 研、
藏城雅文、桑原政成、嶋田英敬、高田龍平、高橋澄夫、
田中経雄、津谷 寛、土橋卓也、堤 善多、長瀬満夫、
日高雄二、松尾洋孝、水田栄之助、嶺尾郁夫、宮崎 聡、
森崎裕子、森田美穂子、森戸俊典、山崎知行、山下浩平

(43名中 出席25名 委任状11名 欠席7名)

(監事) 笹田昌孝

(1) 上田理事長が議長席に着き午前7時45分に開催を宣言した。

開催に際して第53回総会の会長である土橋評議員より挨拶があった。福岡での開催に際して各方面からご支援を頂き開催する事ができた。66件にも及ぶ演題が用意されているので、盛大な学会になるものと期待している。

議長より本日の出席状況は下記の通りで定款第27条により本評議員会は成立する事が報告され、議事録署名人には議長のほかに出席理事の中から山内高弘理事が選任された。

予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 令和元年決算・監査報告】

山内庶務幹事より配布された決算書に基づき令和元年度決算内容の説明があった。収入はガイドライン印税6百万円・転載許諾8百万円・寄付金と会費の6百万円を合計し20百万円となり、支出の合計16百万円(ガイドライン費用6百万円を含む)を差し引き、当期の最終利益は4百万円となったとの事であった。

その後、笹田監事より監査報告があり業務執行状況や事務手続などは適正に行われているとの報告があった。

議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。

【第2号議案 令和2年予算案】

引き続き山内庶務幹事より配布の予算案に基づき令和2年の予算内容の説明があった。収入面では旧学会解散に伴う9.5百万円・第51回総会の収益金からの3百万円の寄付金及びガイドライン印税や転載許諾など合計7.2百万円と受取会費5.6百万円を見込み、合計25.3百万円とした。支出面では事業費は5百万円及び管理費は7.7百万円(前期分法人税など1.8百万円を含む)で12.7百万円と見込み、今年度の経常利益は12.6百万円としているとの事であった。

議長が議案2の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。

【第3号議案 第55回総会 会長選出】

上田理事長より第55回総会の会長候補者として国立病院機構あわら病院の津谷 寛 院長を推挙することが提案され出席者全員の賛意を得て承認された。

津谷院長より次々回は14年ぶりに福井での開催となり今回の総会に並ぶようなホットな総会にしたいとの発言があった。

【第4号議案 令和元年度学会賞受賞者決定報告】

令和元年度学会賞は名誉会員・理事・評議員より推薦された候補者を選考

委員会で審議し、東京大学医学部附属病院 薬剤部講師である高田龍平先生に決定したことが上田理事長より報告があった。

【第5号議案 令和元年度優秀論文賞受賞者決定報告】

前年1月から12月の間に本学会機関紙に掲載された痛風と核酸代謝に関する原著論文及び症例報告の中から、選考委員会で審議の結果、最優秀論文賞は三穂クリニックの栗山哲先生、優秀論文賞は兵庫医科大学の藏城雅文先生、福井大学の大岩加奈先生に決定したことが市田編集委員長より報告された。

【第6号議案 編集委員会報告】

市田編集委員長より下記の通り報告があった。

- (1) 令和元年の J-Stage アクセス数は総計 315,329 アクセスに増加した。
- (2) 学会名称の変更を機に、学会ロゴマークを制定した。
- (3) 学会推奨ジャーナル名の略称が以下の通り決定した。
英語版学会誌名は「GOUT AND URIC & NUCLEIC ACIDS」
学会推奨略称 「GOUT URIC ACID NUCLEIC ACIDS」
- (4) これまでの和文投稿規定を見直すとともに英文投稿規定も作成した。
- (5) コメディカルの方の入会促進策を検討中である。
- (6) 現在課題や論文の査読を3人で行っているが、多いという意見もあり検討中である。

【第7号議案 認定痛風医資格制度委員会報告】

資格制度委員長の寺井理事より下記報告があった。

- (1) 第9回認定痛風医申請については新規申請者が4名、令和元年度更新申請者が6名あり、それぞれ承認され認定痛風医は55名となった。
- (2) 第8回教育研修会は平成31年2月15日に開催され参加者は12名。
- (3) 第7回認定痛風医試験は令和元年6月29日に実施し合格者は1名。
- (4) 学会名変更に伴う認定痛風医英語表記が以下のように改定した。
Board Certified Member of the Japanese Society of Gout
and Uric & Nucleic Acids
- (5) 学会ホームページの改定
認定痛風医名簿欄に勤務先・所在地・外来機関を追加し、並べ替えを

可能にした。

- (6) 学会ロゴの変更に伴い認定痛風医証デザインを変更した。
- (7) 第9回教育研修会は14日(金)に総会と同じ北九州国際会議場で開催予定であり今からでも参加は可能である。
- (8) 認定痛風医資格制度委員会委員の交代 (承認事項)
現委員の寺井委員長、箱田委員、浜田委員、堤委員の4名が任期満了で退任となるので、後任として谷口理事(委員長)、土橋評議員、藏城評議員、桑原評議員の4名を委員長及び委員に推薦したい。

議長が出席者全員の賛意を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

【第8号議案 (i) ガイドライン広報委員会報告】

この委員会はガイドライン第3版の発刊に伴い理事長の指示により12月より発足したもので内田委員長から1年間の活動報告があった。

- 1. 広報・啓発・普及活動
 - a) 広報啓発活動用の共通スライドを作成した。
スライドはホームページに近々掲載予定。
 - b) Mindsの要請により活用状況に関するアンケートを実施した。
10社10回の開催分で625名より回収した。
今後関連講演会でafterのアンケートを実施する予定。
- 2. 他学会へ講演依頼
リエゾン委員を派遣して頂いた学会やその他の学会など35団体に依頼した。
- 3. 6-7-8 ルール策定の根拠についての回答モデルを作成した。
- 4. ガイドライン中国語版を検討中。
- 5. 地域医師会との連携講演会を製薬会社に一括依頼する方法などで積極的に開催してゆく方針。

今後、ガイドラインの広報関係が落ち着いてきた段階で学会全体の広報委員会として発展的に解消して行きたいとの事。

【第8号議案 (ii) ガイドライン改定委員会報告】

久留委員長よりガイドライン発刊後の評価指標に関して報告があった。

- 1) 普及の方法

- ・ガイドライン第3版の発行部数は10,500冊、ダイジェスト版は5,500冊となっている。
- ・英語版については二重投稿回避の為に、英語翻訳を学会誌に投稿することとした。
- ・WEBサイトではMinds上にて第2章のクリニカルケースを2月初旬に掲載し、その後全文を掲載する予定。
 - ・今後は一般市民向けの講演や患者向けのQ & Aも作成する予定。

2) モニタリングと監査

- ・Webサイトのアクセス数・患者アウトカム測定・アンケート調査結果などのガイドラインの有効性評価が注目されている。

ガイドライン第3版追補版については、1月に新薬(ドチヌラド)の製造承認がおり発売される見込みであり、それを含んだ追補版の作成の検討をしている。

議長より本件については引き続き久留委員長にお願いしたいとの提案があり承認された。

【第9号議案 あり方委員会報告】

あり方委員会での議論を踏まえ山中副理事長より学会の財務面の強化について対策について下記説明があった。

ここ数年の学会の財務状況はガイドラインが出版されると印税などで収益が上がり黒字になるが、それ以外の期は赤字の状態が続いている。この理由は学会の収入の大半が製薬会社からの特別賛助会費に依存している為である。今後は学術集会などで製薬会社と協賛でスポンサーズセミナーやランチョンセミナーを開催して収益をあげて行くことを考えて行く必要がある。その為には従来の学術集会の運営を総会長主導ではなく学会主導に変更してゆきたいとのことであった。

議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛否を得て承認された。

【第10号議案 学会人事及び理事会開催回数の見直し】

上田理事長よりあり方委員会の討議を踏まえ下記人事案が提案された。

(i) 理事・評議員・監事の改選

・理事の改選

任期満了による退任 3 名 上田理事長、藤森副理事長、登理事
本人申し出による辞任 2 名 山中副理事長、大野理事
新規選任 2 名 津谷寛評議員、土橋卓也評議員

・評議員の改選

任期満了による退任 1 名 竹内評議員
新規選任 6 名 阿部弘太郎先生、大内基司先生、大谷直由先生
此下忠志先生、玉井郁巳先生、山岡法子先生

・監事の重任

現監事 2 名については本人の承諾もあり重任。

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意により原案通り承認された。

(ii) 理事長・副理事長の選出

今般理事長が理事の定年で退任となる為、後任の理事長として前回の学術集会や理事として実績のある金子希代子理事を推薦したい。
金子理事より理事長就任に際し、副理事長には臨床分野で活躍されている市田公美理事と久留一郎理事をお願いしたいとの提案があった。

(iii) 庶務幹事・編集幹事の選任

庶務幹事には新理事長と同じ帝京大学に勤務している細山田真理事
編集幹事は引続き山内高弘理事をお願いしたいとの提案があった。

議長が新規選出案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛否により原案通り承認された。

(iv) 理事会開催回数

現在の年 1 回から状況に応じて追加で開催できるようにしたいとの提案があり承認された。

【第 11 号議案 名誉会員の承認】

上田理事長より本年 2 月退任及び辞任の理事 5 名を推薦したいとの提案があり出席者全員の賛否を得て承認された。

【第12号議案 旧学会の解散】

【第13号議案 基金返還の放棄】

【第14号議案 定款の変更】

山中副理事長よりあり方委員会での討議を踏まえ、議案12,13,14について一括して説明があった。

学会の法人化手続の中で平成19年に一般社団法人として現在の学会に移行した。その際に資産は旧学会にそのまま残しておいたが、税理士の助言もあり旧学会は解散し新学会に一本化するもの。(議案12)

将来にわたり旧学会からの基金返還の放棄を受諾するもの。(議案13)

新学会として旧学会の解散に伴う基金返還の放棄をうけ定款第6条を下記のように変更するもの。

「第6条 当法人は、基金を引き受ける者の募集をすることができる。」
(議案14)

議長が議案12,13,14の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛否により原案通り承認された。

【第15号議案 学術集会開催時の接遇基準規定について】

山中副理事長よりあり方委員会での討議を踏まえ、従来会長に一任されていた接遇基準を今後は別表の同一基準に基づき運営したいとの提案がなされ、出席者全員の賛否を得て承認された。

【第16号議案 庶務幹事報告】

山内庶務幹事より学会の現状について下記報告がされた。

個人会員及びホームページのアクセス数は共に増加傾向にある。

以上で評議員会の審議は終了し議長が午前8時45分に閉会を宣言した。

最後に学会を定年で退任する上田理事長より退任の挨拶があった。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び出席理事がこれに記名捺印する。

令和2年2月13日

議 長（理 事 長） 上田 孝典

議事録署名人（理 事） 山内 高弘